

2021年度活動概要

多文化共生と英語教育研究会

2021年度は2020年度の取組を発展させ、「Society5.0（創造社会）」という新しい環境の中で「時代に即した多文化共生と英語教育の捉えなおしが求められている」という認識の下、「創造社会における地球市民としての認識や多文化共生、SDGs活動などと英語教育とを結ぶことの意義と重要性」をより深く考える活動をめざしました。

具体的には、東海地区6大学に在籍する317人の大学生を対象に「英語と社会」をテーマとするアンケート調査を行い、多文化共生やSDGs、ジェンダー平等、自動翻訳などに関する学生の意識を問うとともに、多文化共生等への認識と英語学習への積極性との相関性の有無の分析を行いました。

調査結果の一部については、第60回 JACET 国際大会（オンライン開催）の JACET Hours（8月27日）において「英語教育と Diversity&Inclusion:多様性を包摂した新しい英語教育への提言」と題した口頭発表をメンバー全員で行い、その発表をベースに、より詳細に論じたものを「Diversity &Inclusion をめぐる大学英語教育の課題と実践」と題して JACET 中部支部紀要第19号（pp77-100）に投稿し掲載されました。

具体的には、Diversity&Inclusion と SDGs、多文化共生への関心度、ジェンダー・ステレオタイプへの気づき、多言語社会と英語の関係、AI時代の大学英語教育、という多様な視点から大学生の認識と英語教育の課題を分析し、実際的な提言を試みたものです。調査の結果、大学生の多文化共生への関心の高さと英語教育への積極性との間に一定の相関性が見られることも判明しました。しかし、多様な視点を統合することの難しさや量的調査の厳密性・信頼性の確保という点で改善すべき課題も見えたと感じています。

2022年度は、2021年度での量的調査に加えてさらに質的調査を重ねることにより、現代社会の課題に対する大学生の意識をより多角的且つ綿密に調査する意向です。それらの調査結果を「包摂的な大学英語教育」をより有効に実践するための英語教授法の提示へとつないでいきたいとも考えています。